

特集

巨大津波の傷跡深く 仙台火発内を東北電力公開



津波で損傷した仙台火力発電所4号機の1階

東北電力は31日、津波被害を受けた仙台火力発電所4号機（宮城県七ヶ浜町）と、新仙台火力発電所1、2号機（仙台市宮城野区）を報道関係者に公開した。タービンや発電機の中核設備は建屋の3階にあって浸水はなかったが、1階の周辺設備は損傷し、復旧に相当な時間がかかりそうだ。

同社によると、津波は最大3～5メートルの高さで襲来し、両発電所の構内はがれきや土砂、流された自動車で埋め尽くされた。

仙台火力4号機は事務本館1階が天井まで壊れた。設備本館では押しつぶされた装置もあった。同機は最新鋭で昨

年7月に営業運転を始めた。

新仙台火力発電所も建屋1階の機械設備や電気設備が壊滅状態。電力を電力系統へ送り出す中継基地となる開閉施設は基礎がえぐられ、むき出しになっていた。

同社は調査を続けて復旧計画を作る。タービンは揺れの影響を確認する分解点検が必要で、運転再開まで1年以上かかる可能性がある。

両発電所の中野仁所長は「設備状況を詳細につかみ、できるだけ早く電力供給したい」と話した。

2011年04月01日 金曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō